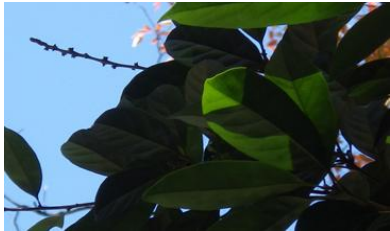



シリブカガシ	<i>Lithocarpus glaber</i> (Thunb.) Nakai	情報不足
		ブナ科
選定理由	県内では産地が限られる希な植物で、一箇所の生育地での消滅が県内個体の絶滅に結びつく可能性があるが、県内の個体は植栽逸出起源とも考えられ、絶滅のおそれの程度がはっきりしない。	写真(高野裕行) 
形態の特徴	常緑高木。樹皮は灰黒色。成葉の上面は光沢のある緑色、下面は鱗片状の毛があり銀灰白色、革質で有柄。葉身は長楕円形、やや鋭頭、基部は広いくさび形、全縁か上部のみ波状鋸歯縁、側脈約7対。花は10月。堅果は翌年の秋に暗褐色に熟し長球体、殻斗は椀状で、多数の鱗片状総苞片が覆瓦状に重なり、隣接する殻斗と癒合する。	
生態的特徴	南西日本の丘陵地の常緑広葉樹林に生える。	
分布状況	本州(東海以西)、四国、九州、琉球。台湾、中国南部。県南中部に稀に野生状態で生育する。分布がきわめて限られ不連続であるため、植栽逸出起源ではないかと推定される。	
減少要因	丘陵地の開発による生育地の消失。	
保全対策	丘陵地の開発の抑制。	
特記事項	可食性の果実や材の有用性から植栽されることもあり、県内では分布がきわめて限られて不連続であることを考え合わせると、県内の個体は植栽逸出起源とも推定される。	
参考文献	Flora of Japan. Volume II a. Angiospermae Dicotyledoneae Archichlamydeae(b). 2001. KODANSHA. Edited by Kunio Iwatsuki David E. Buufford and Hideaki Ohba. Fagaceae H. Ohba	

文責: 高野裕行